

**新潟日報「窓」覧(2010年5月18日)掲載の“残したい阿賀野川河畔の自然”  
に関してお答えします。**

阿賀野川では、大河の風格と清流の輝きに代表される自然豊かな河川環境と河川景観を保全・継承することを目指し、河川の多様性を意識しつつ治水・利水・環境に関わる施策を総合的に展開しています。

段階的に河川の整備を進める中で、現在、阿賀野川では樹林地の拡大等により洪水を安全に流すことができなくなっている阿賀浦橋から上流部において、樹木伐採を進めています。樹林地の拡大は洪水が流れることができる河川の幅を狭めるだけではなく、洪水時に流木となって流された場合には、下流にある橋脚等の河川内施設や樹木群に堆積し、洪水の流れをより妨げることにもなります。また、海に流れ出た流木は船舶の航行や網破り等の漁業被害を及ぼします。

阿賀野川の樹林地面積は調査データが存在する昭和43年に比べて、近年では約2.5倍にも拡大しており、本来裸地であった河原が安定植生域（樹林地）に変化し、かつて阿賀野川が有していた、河川特有の環境である広い砂礫河原が減少してきています。

阿賀野川の樹木伐採は、洪水を安全に流すためだけではなく、阿賀野川らしい環境に近づけることで、森や草原では見られない河川特有の生物の生育・生息環境を保全する生物多様性の観点からも河川環境の保全に役立つものと思われます。なお、環境面に及ぼす影響については、地域の価値観や河川の特長によるところが大きいため、モニタリングにより検証をおこないながら地域の皆様や学識者の方々から助言を頂きながら進めてまいります。

平成21年度樹木伐採についてもご参照ください

<http://www.hrr.mlit.go.jp/agano/news/infodata10/100511.pdf>

## 阿賀野川の樹林地の変遷

航空写真で中新田・六郷地区（19.0k～21.0k）の河道及び樹林の変遷を見ると、昭和 36 年は砂州が広く分布しており、樹林と思われる箇所がまばらに点在していました。また、みお筋の一部が網状化し、出水のたびに攪乱が起きていたことが想定されます。

一方、平成 17 年は水際を含め、耕作地以外の箇所が多くが樹林で占められおり、砂州が減り、みお筋が固定化している状況がうかがえます。

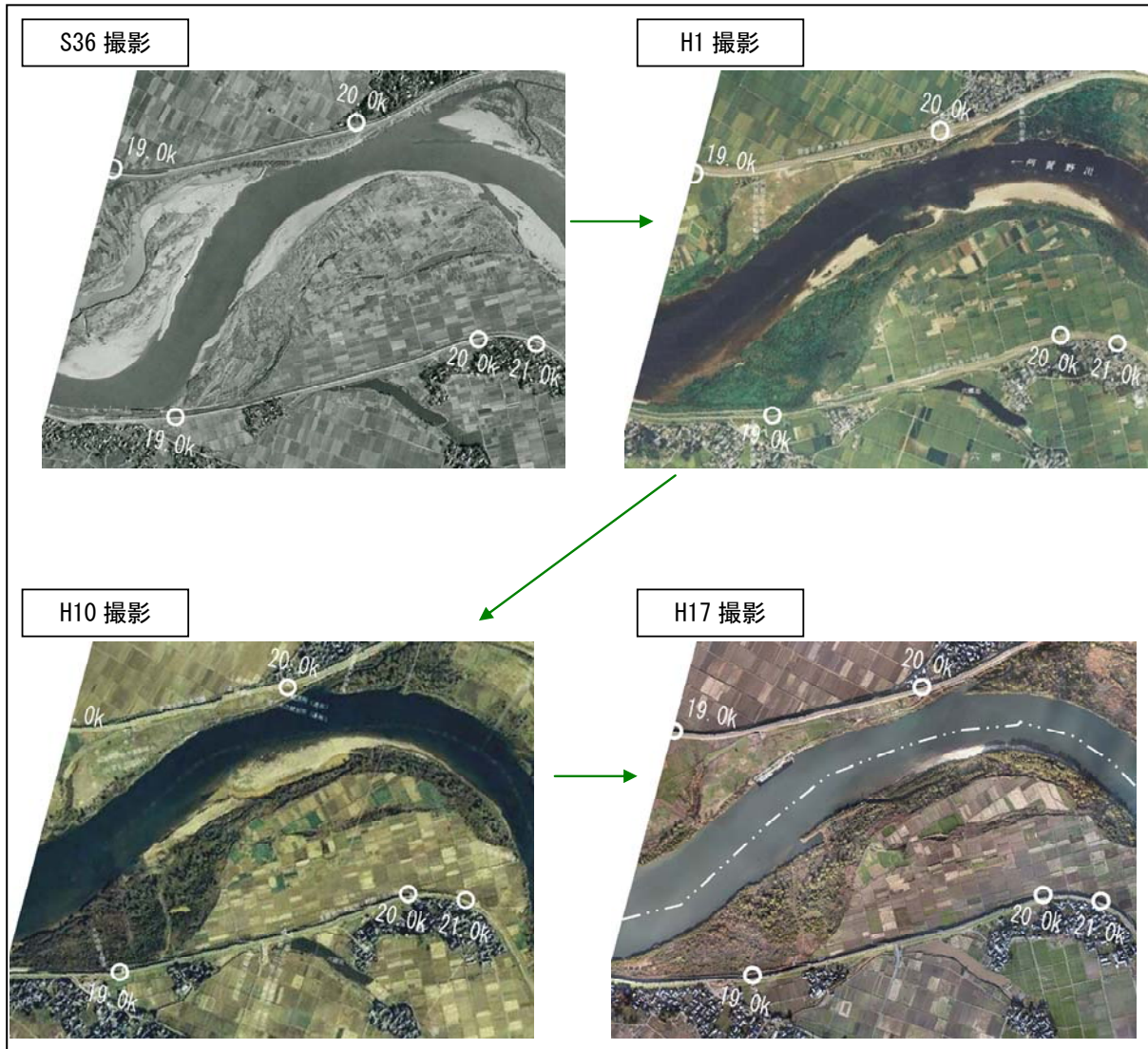


図 河道及び樹林の変遷

## 樹木伐採時に存置した樹木

当該地区の以下に示す樹木は、治水上支障のない範囲で伐採せずに存置しました。

- ① 大径木に成長し、再生に時間がかかる落葉広葉樹
- ② ヤナギのうち大径木で活力が高いと思われるもの
- ③ 伐採地に特徴的に見られたクワの木等
- ④ 野鳥等の生息場所の保全に寄与する可能性のある樹木

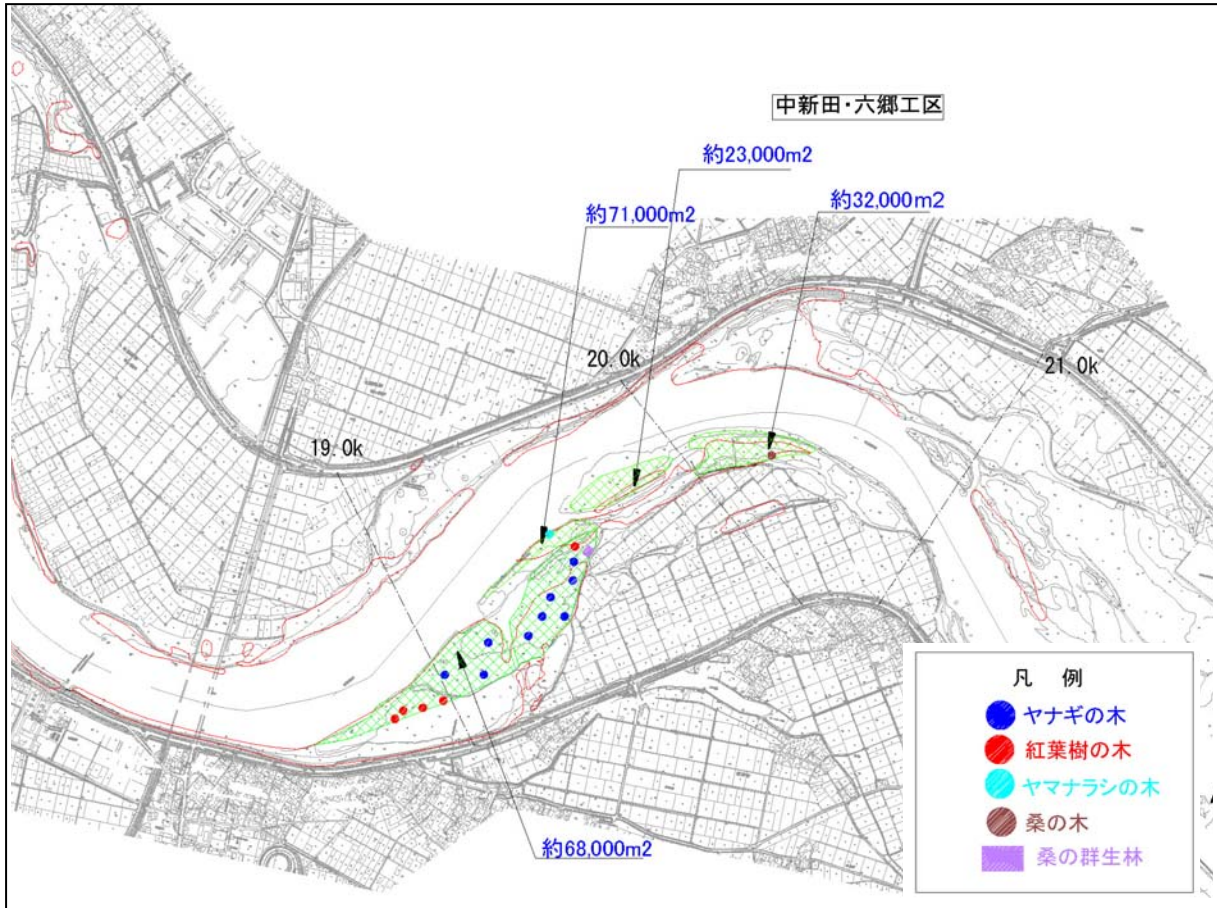


図 存置した樹木